

みんなで帰ろう「家族時間デー」アンケート調査結果

みんなで帰ろう「家族時間デー」の取組み終了後に、実施してみたの感想などをアンケートでお聞きし、結果を取りまとめました。

1 実施して良かった点

「家族時間デー」を設定し、定時退社に取組んでみて良かった点については、「職場や従業員の定時退社の意識が高まった」が最も多く、次に多いのが「効率的に業務を行い仕事にメリハリをつけることができた」でした。このことから、定時退社日の設定が、従業員の意識を高め、効率的な業務につながるということが分かります。

項目	回答数
職場や従業員の定時退社の意識が高まった	20
従来設けていた定時退社日(ノー残業デー)の認識が高まった	12
効率的に業務を行い仕事にメリハリをつけることができた	16
ノー残業デーを設けるきっかけとなった	8
従業員が家族とともに過ごす意識ができた	5
その他	2

2 難しかった点

今回の定時退社の取組みで難しかった点については、「急ぎの仕事が発生した場合など業務の調整ができなかった」が大多数であり、定時に帰る際に一番のネックとなるのは、急な注文等への対応など、業務の調整だということが分かります。

項目	回答数
従業員に対する「家族時間デー」の周知・徹底が十分できなかった	8
急ぎの仕事が発生した場合など業務の調整ができなかった	28
業務の繁忙期と重なったため業務量が増加した	5
職場内で効率的に仕事を行う意識が十分でなかった	3
特になし	7
その他	4

3 定時退社推進の課題

従業員の定時退社を進めていく上で課題と考えられることについては、「従業員の定時退社に対する意識の向上」と「業務の一層の効率化」の2つの回答でほとんどを占めており、定時退社日の設定など、これらに対する工夫が重要となるということが分かります。

項目	回答数
従業員の定時退社に対する意識の向上	25
業務の一層の効率化	21
定時退社日(「家族時間デー」など)以外の日の実践促進	4
営業など業務の性格上、特定の日に定時退社を実施することは困難	8
特になし	3
その他	4

4 今後の取組み

今後の定時退社の取組みについては、最も多かった回答は「検討中」ですが、「新たに始める予定」と「従来から実施している」という回答を合わせると今後4割以上の企業等で定時退社の取組みが行われます。また、「検討中」の企業等が定時退社に取り組むようになれば、半数を超える企業等で実施されることになります。

項目	回答数
新たに始める予定	2
従来から実施している	14
予定はない	4
検討中	19

5 定時退社等に関する意見・感想

家族での時間を大切に取る取組みや定時退社に関するご意見・ご感想の一部を抜粋しました。

- ・定期的な取組みを今後も続けて、社員福祉の充実につなげたい。
- ・定時退社に向けて仕事を終わらすよう意識していたのが良かった。
- ・早く帰ってもすることがなく、業務命令として仕方なく定時退社しているという様子もあった。家族との時間も大切だが、自分の心と体を休めるためにも、残業を減らすことは必要であり、より一層社内での意識向上に努めたい。
- ・以前から定時退社を実施しているが、今まで以上に退社時間についての意識統一が計られた。
- ・家族との時間を大切にすることにより、仕事への意欲も向上すると思う。また、定時退社を心がける事で、仕事を効率よく行う意識も高くなる。業務上、なかなか難しい時もあるが、自分自身のワークライフバランスを考え仕事をしていきたい。
- ・「指定日のみ早く帰る」という一時しのぎ的な考えが支配的で、早く帰った分、翌日に事務のしわ寄せがきていた。この機会を利用し、事務量縮減を図るための具体的な方策に取り組む必要がある。
- ・子どもにとって家族団欒の時間はとても大事であり、とても良い取組みだと思う。
- ・上司が定時に帰るよう指示することが一番の取組みだった。
- ・定時退社による仕事とプライベートの時間のメリハリが職員に周知できた。自分の時間を有効に活用することにより、ストレス抑制効果があると思う。
- ・社会全体に定時退社が定着すれば、家族と一緒に過ごす時間が増える。子どもは家族と一緒に過ごす時間が非常に大切。
- ・定時退社はとても大切だが、それが徹底され当たり前のことになった時、残業や緊急対応、休日出勤に対して嫌悪感を持つようになるのではないかと危惧する。残業を厭わない、仕事が大好きな人にはなかなか徹底が難しかった。家族が揃う休日、祭日に仕事のことが多く、家族の方には協力と理解を得ているが、努力したい。
- ・官民ともに家族参加型のイベントを企画、実行すると良いのではないかと。
- ・業務の内容により定時退社が困難な部署において、今後も引き続き取り組んでいくことが必要。
- ・家族時間を大切に思う気持ちを企業側が持つことは、従業員の立場としては、定時に帰りやすく、いいことだと思う。ただ、勤務形態が複雑なため、定時に帰宅しても、家族と時間の共有ができない場合もあった。

- ・家庭で家族とのふれあいを増やすための「家族時間デー」の設定は、業務の効率化を計る上でとても良かった。8～11月は業務も多く大変だったが、できるだけ呼びかけを行ったところ職員の協力もあり仕事をできるだけ切り上げて退社することができた。今後も定時退社の日を設定して家族との時間を少しでも多く持つように心がけたい。
- ・家族時間という観点で、定時退社の取組みができたことが良かった。
- ・業種によって、できる、できないの差があると感じた。